

## 第2回 今後の有料道路のあり方研究会

高速自動車国道の料金割引に関するパブリックコメント等の結果  
(参考資料)

# 高速自動車国道の料金割引をとりまく背景・経緯

## 料金水準に係る政府・与党申し合わせ（平成15年12月22日） - 「道路関係四公団民営化の基本的枠組みについて」 -

### ア) 民営化までに実現すべき措置

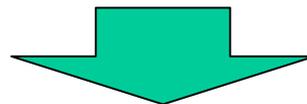
ETCの活用等により、弾力的な料金を積極的に導入し、各種割引により料金の引き下げを行う。

高速国道の料金については、平均1割程度の引き下げに加え、「別納割引」の廃止を踏まえ、更なる料金の引き下げを実施する。具体的には、マイレージ割引、夜間割引、通勤割引等を行う。

### イ) 民営化後の料金

会社は設立の段階でア)の料金水準をそのまま引き継ぐものとし、その上で、貸付料の確実な支払いに支障を与えない範囲において、更なる弾力的な料金設定を行う。

首都高速及び阪神高速については、貸付料の支払いに必要な適切な料金収入の確保を図りつつ、平成20年度を目標として、利用の程度に応じた負担という考え方に基つき、対距離料金制への移行を図る。



多様で弾力的な料金設定へ

## 高速自動車国道の料金割引に向けたスケジュール

8月26日	第1回「今後の有料道路のあり方研究会」
8月27日	} パブリックコメントの実施
~	
9月10日	
9月16日	第2回「今後の有料道路のあり方研究会」
9月下旬	高速自動車国道の料金割引の料金申請・認可 (日本道路公団 国土交通省)
秋目途	一部割引実施
来春	全ての割引メニューを実施

# 別納割引制度

## 別納割引制度の概要

### 割引制度導入の背景と理由

昭和38年に通行料金の路線バス及び路線トラックを対象とする後納制度(割引なし)を導入し、昭和41年から大量利用の促進、大口利用者の定着化を図る目的で割引を付加し、昭和44年から対象を事業協同組合に拡大。

### 制度の概要

高速道路の通行料金の合計支払額が月平均1万円を超える利用者に対して、その利用額に応じて下表のとおり割引を行っている。

割引区分表

月 額 利 用 額				割引率
1.4 万円を超え	7	万円までの部分		5%
7	"	70	"	10%
70	"	140	"	15%
140	"	280	"	20%
280	"	700	"	25%
700 万円を超える部分				30%

### 別納割引による高速道路料金収入の推移

(単位:億円)

	料金収入	うち別納収入		割引額	
			シェア		平均割引率
平成11年度	18,467	5,595	30.3%	2,141	27.7%
平成12年度	18,623	5,809	31.2%	2,250	27.9%
平成13年度	18,462	5,695	30.8%	2,211	28.0%
平成14年度	18,176	5,741	31.6%	2,248	28.1%
平成15年度	18,239	6,046	33.1%	2,394	28.4%

## 別納割引制度の問題点

### 別納制度への批判( 民営化推進委員会・新聞報道・国会)

割引率が一般利用者に比して著しくアンバランスである(最大3割引)

制度の仕組みが、以下の悪質行為を誘発する

・一括割引 / 一括請求方式 「サヤ抜き」による蓄財(身内企業への出資・脱税・政治献金)

新聞報道 28回・17組合(五大紙)

・小口利用の集合化により高い割引を受けることが可能 割引目的の組合の設立

異業種組合(利用者数の約1割)が、カード全体の約75%・割引額の約50%を占めている。

・カードの使い回しが可能 組合員外利用・登録外車両の利用(不正な割引)

71組合に割引相当額(総額25億円)の返還請求(現在請求中)

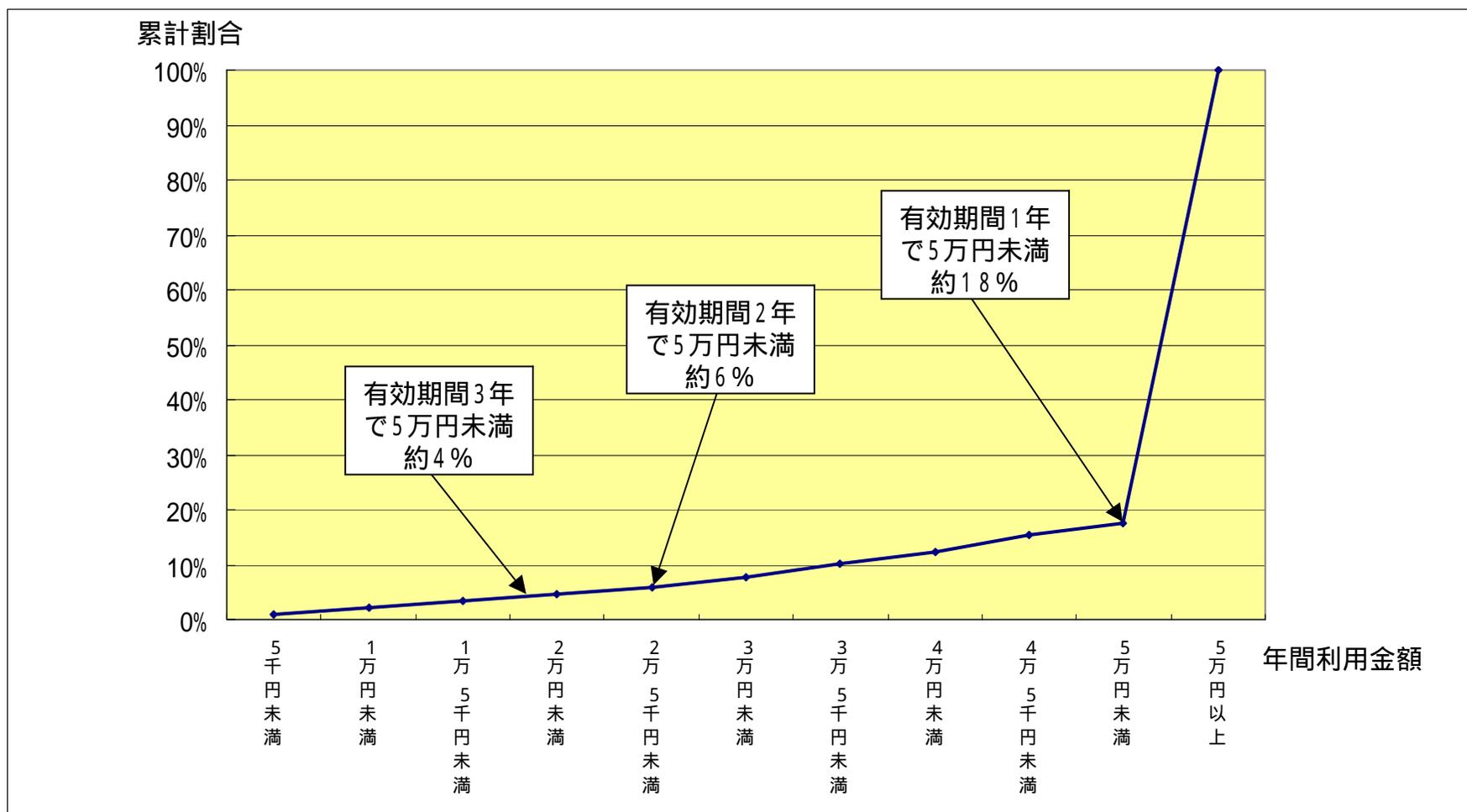
### 大臣指示(平成15年9月19日)

現行の別納制度を廃止する。(既契約者は現行の契約期間(16年度末)まで契約を継続)

ETCを前提とした大口・多頻度利用者向け制度を16年度を目途に創設する。

## ETC前払い割引を利用している方の利用状況

ETC前払い割引を利用している方のうち、2年間の利用金額が5万円に達しない方の割合は約6%  
仮に、有効期間を3年間に延長させたとしても、利用金額が5万円に達する方の増加はわずか



## 他企業における大口割引の事例

他企業における大口割引率は、概ね10～30%

新制度は、20%の最高割引率を前提とすることから、他企業における大口割引率とのバランスを考えると、ボーナスポイントの最大割引率は10%とすることが妥当

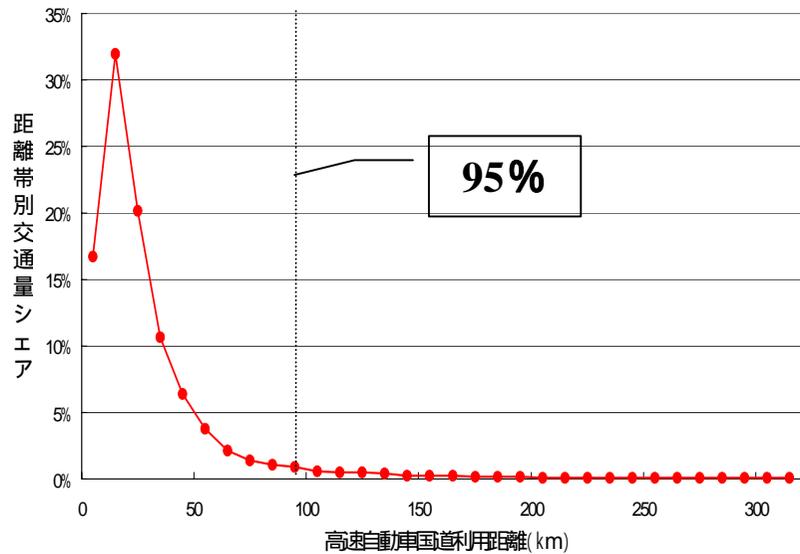
### 参考：他企業における大口割引率

企業(サービス)	大口割引の例
クロネコヤマト(宅急便)	同一の者が1回に複数利用する場合 11～50個:10%、501個以上:30%
日本郵政公社(ゆうパック)	同一の者が1回に複数利用する場合 10～49個:20%、500個以上:30%
東京急行電鉄(運賃)	同一行程を25人以上で乗車する場合 25人以上(普通):10%、300人以上(学生):30%
JR東日本(運賃)	同一行程を8人以上で乗車する場合 普通(閑散期):10%、学生(中学生以上):50%
KDDI(携帯通話料)	会社等の同一名義で複数の回線を利用する場合 2～4回線:10%、1,000回線以上:22% 会社等の同一名義の回線を1グループとし定額料を支払う場合 20万円未満:15%、500万円以上:28%
NTTドコモ(携帯通話料)	月々の通話料の合計額が一定額以上の場合 5千円以上1万円未満:5%、10万円以上:20%
商船三井(フェリー運賃)	15名以上で利用する場合:10%

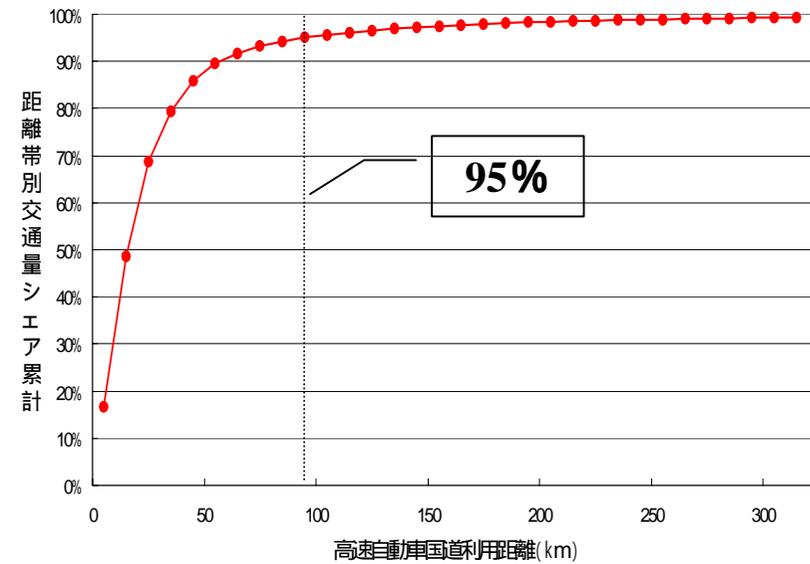
# 通勤目的の高速自動車国道利用距離

通勤目的の約95%の方が、100km以内の利用

分布図



累計図



H11道路交通センサス(平日)より、通勤目的(出勤, 登校, 観光等以外の帰宅)の交通量を高速自動車国道利用距離帯毎に集計

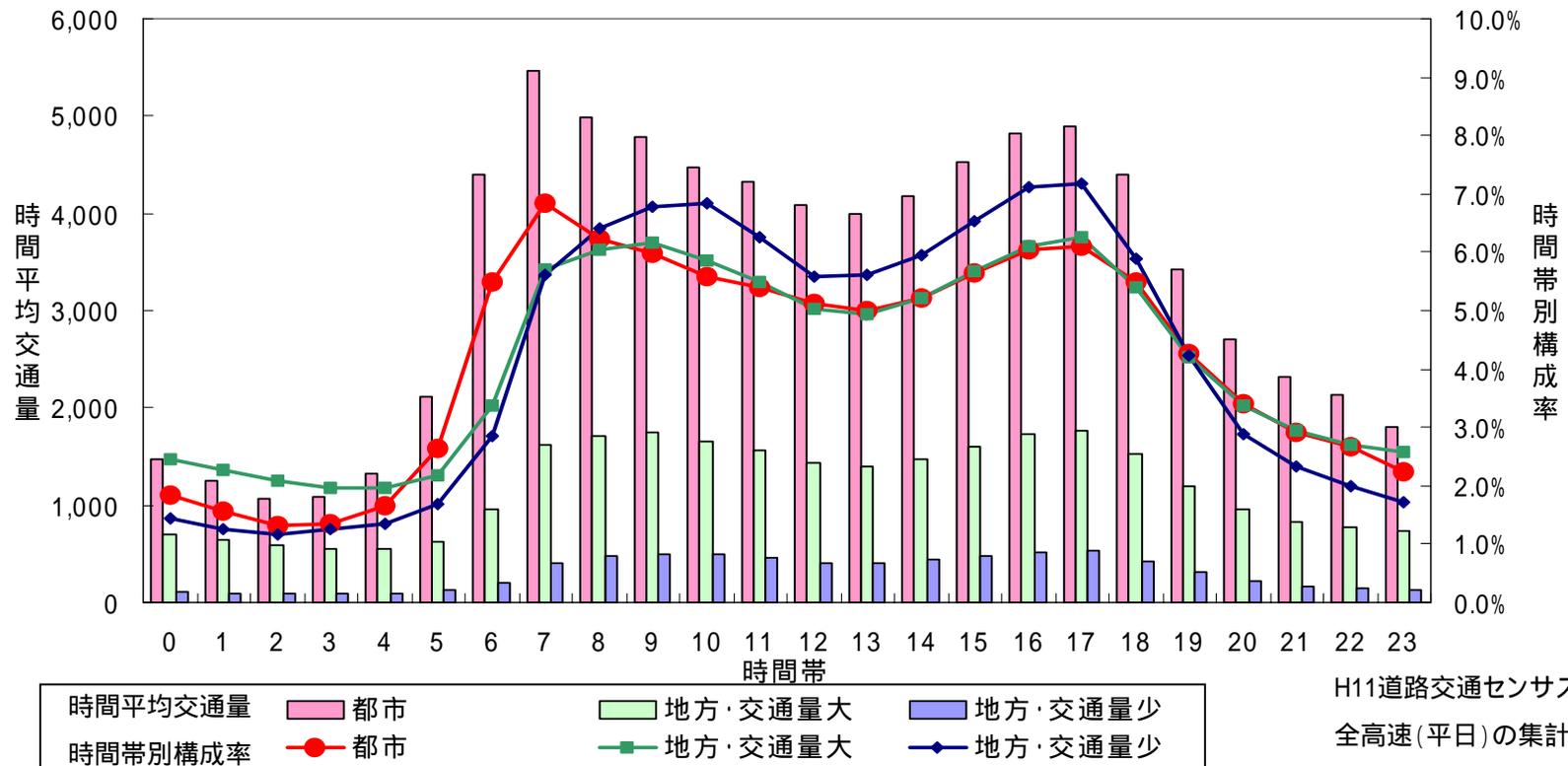
## 鉄道の通勤定期の割引率

	割引率	
	30日換算の時	22日換算の時 (通常の1月当たりの勤務日数)
JR	約50%	約30%
私鉄(東急)	上限 38.8%	上限 約16.5%
私鉄(阪急)	上限 38.1%	上限 約15.6%
高速道路の 通勤割引	50%	50%

高速道路の通勤割引は、1回の利用額を50%としているため、30日の利用でも22日の利用でも割引率は50%となる。

# 平日時間帯別交通量の分析

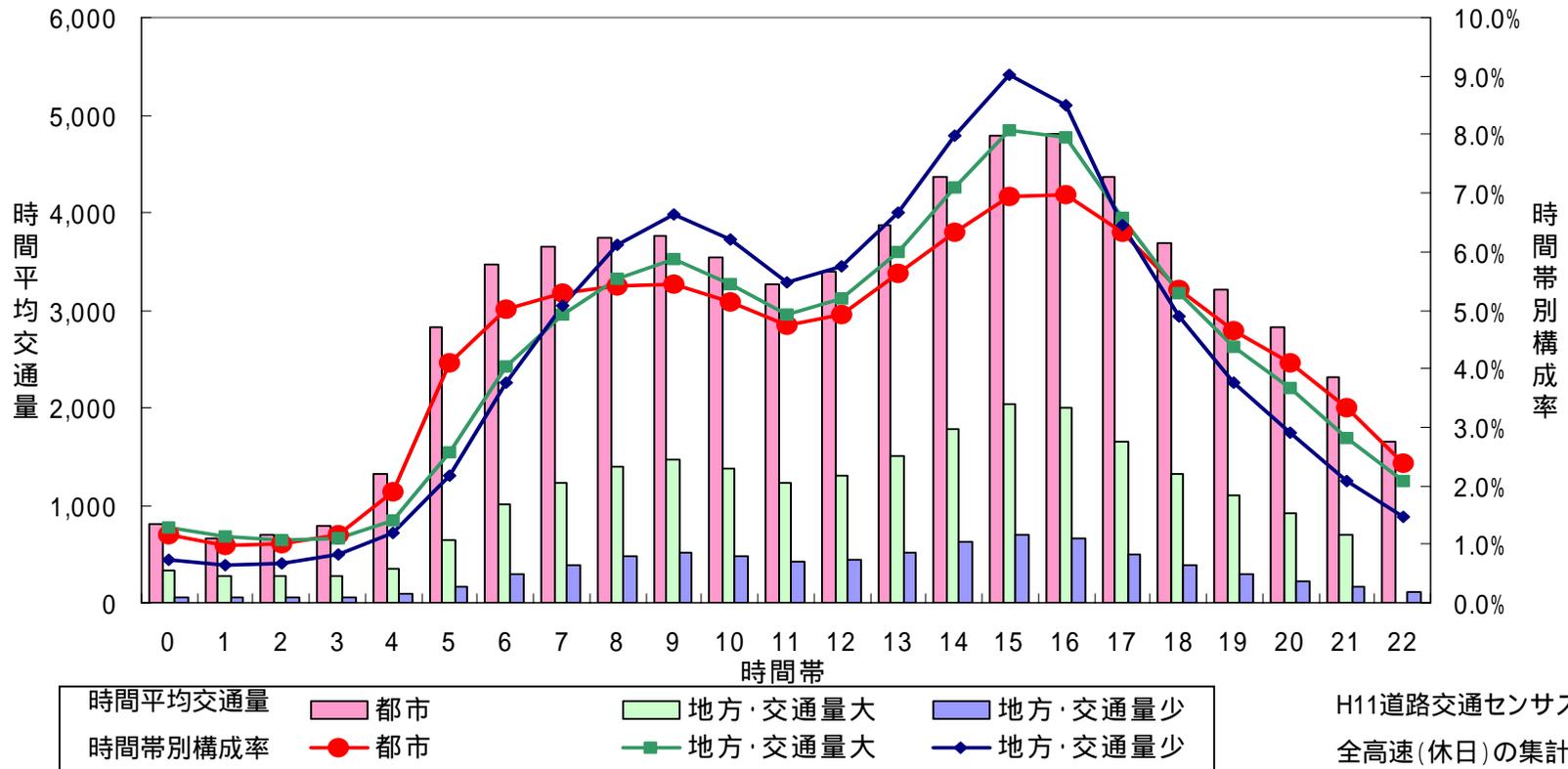
地方部・都市部ともに、朝夕の時間帯のピークがあるが、都市部は朝のピークの発生が早い  
 地方部・都市部ともに、夜間利用が少ない



H11道路交通センサによる  
全高速(平日)の集計データ

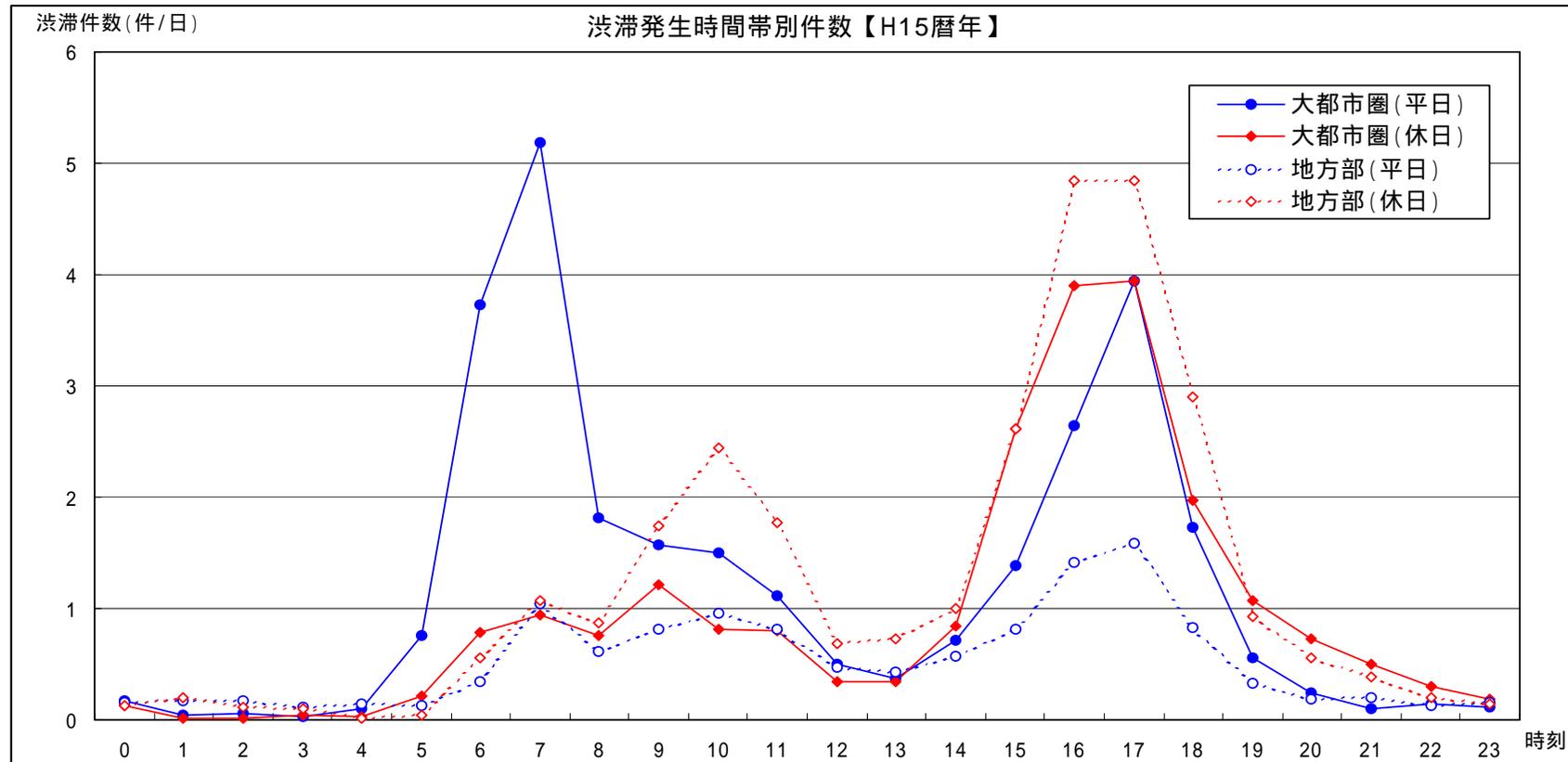
# 休日時間帯別交通量の分析

休日の朝ピークは小さく、夕方のピークが顕著に発生  
 休日も平日同様に夜間利用は少ない



# 高速自動車国道における渋滞の発生時間

平日は朝・夕に渋滞が集中。休日は大都市圏・地方部とも大きな変化無し。



大都市圏区間:東名(東京～厚木)、東北道(川口～加須)、常磐道(三郷～谷田部)、東関東道(市川～成田)、新空港道(全線)、関越道(練馬～東松山)、中央道(高井戸～八王子)、東京外環道(全線)、道央道(札幌西～札幌JCT)、道央道(札幌JCT～札幌南)、東名阪道(名古屋～名古屋西)、西名阪道(全線)、近畿道(全線)、阪和道(松原～岸和田和泉)【L = 463 km】

地方部区間:上記以外【L = 6,824 km】

渋滞の定義:時速40km以下で低走行あるいは停止・発進を繰り返す車列が1km以上かつ15分以上継続した場合(事故及び工事渋滞を除く)

休日とは日・祝日と年末年始(71日間)

## 国内外の有料道路の割引制度の代表例

分類	日本（高速自動車国道）	フランス	イタリア	アメリカ
利用量に応じた割引制度	一般利用者向けマイレージ(ETC車) 最大13.8%割引 新たな大口利用者対象割引(ETC車) 利用額に応じて割引(最大20%割引) 利用総額500万円超で10%割引	多頻度定額料金(ETC乗用車) 21回～60回までは、20回分の料金で定額(最大66%割引) 21回未満と60回超については、通常料金 (A14のパリ～ポワシー間)		多頻度定額料金(ETC車) その月の利用回数が40回以上の場合は、翌月の初めに利用料金の10%が、利用者のETC口座に払い戻される。 (フロリダ州のアリゲータレイ)
利用時間帯や曜日による割引制度	(地方)通勤割引(ETC車) 6:00～9:00、17:00～20:00にICを通過する車両は50%割引 総利用距離が100km以内 (大都市)早朝深夜割引(ETC車) 22:00～6:00にICを通過する車両は50%割引 総利用距離が100km以内 夜間割引(ETC車) 0:00～4:00に高速自動車国道を走行する車両は30%割引	オフピーク割引(乗用車) 混雑時間帯は25%割増 (16:30-20:30) 非混雑時間帯は25%割引 (14:30～16:30, 20:30～23:30) (A1のルール パリ、日曜日の上り方向のみ)	通勤割引(ETC車) 通勤利用者は25%割引 テレパス登録時に、通勤時に利用する入口出口を指定する。 (A51、A52(ミラノ環状線))	週末定額割引(全車両) 普通車の場合€40、3軸以上の車の場合€80が割引 (約20%割引に相当) (バージニア州のダグラスグリーンウェイ)
その他の割引制度	障害者割引 50%割引 路線バス割引 30%割引 ハイウェイカット 最大20%割引 環境ロードプライシング(ETC大型車) (注1) 最大50%割引	住民割引(ETC乗用車) オレオン市都市圏コミュニティ共同体の住民は80%割引 1日に2回まで、1ヶ月に44回まで 一括払い乗り放題(ETC乗用車) ツール市近辺の料金所を無制限に通過可能 月別、四半期別、年別一括料金		多乗員車割引(ETC車) 3人以上乗車で\$1 (最大75%割引) (ニューヨーク・ニュージャージー港湾管理局)

(注1) この割引制度のみ、首都高速道路、阪神高速道路の事例